



おおが のりお  
大賀 典雄 様

(ソニー株式会社 相談役)

1953年、東京通信工業(株)嘱託。1959年、ソニー(株)参与。1964年、同社取締役。1968年、CBS・ソニーレコード(株)専務。1970年、同社代表取締役社長。1972年、ソニー(株)常務取締役。1982年、代表取締役社長兼COO。1995年、代表取締役会長。2000年取締役会議長。2003年、名誉会長。2006年、相談役、現在に至る。

1979年よりコンパクトディスクのサイズ、収録時間など主たる仕様決定に関与し82年10月に発売。1995～97年(社)日本電子機械工業会会長、1998～02年(社)経済団体連合会副会長など関係団体の要職を歴任。2004年以降、東京文化会館館長。2006年、軽井沢名誉町民。



あべ よしはる  
阿部 美春 様

(元 ティアック株式会社)

1951年DENON時代から磁気録音に関わり、専ら業務用とHi-Fi用機器の開発畑を歩く。YAMAHAを経て57年、TEAC設立に参加、テープデッキ、カセットデッキ等の開発に着手、テープステレオ時代の基礎を築く。71年、TASCAMブランドの音楽家用マルチトラックレコーダーとミキサーの開発に着手、今日のパーソナルMTR(通称パソレコ)の基礎を作る。81年FOSTEXに転じ録音機器部門を新設、パソレコの普及に努める。同年、現ALMEDIOの設立に参加。TEAC取締役、FOSTEX副社長などを歴任。2000年から専ら執筆活動で03年よりJASジャーナルにも記事を連載中。

1958年頃から磁気録音関係の標準化活動に参加、EIAJ、JIS、AES、IEC等の委員会幹事、委員長を歴任。



もりや たけひろ  
守谷 健弘 様

(NTTコミュニケーション科学基礎研究所 守谷特別研究室長)

1980年、東京大学工学系研究科計数工学修士課程修了。同年、日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所 入所。以来、高能率音声、オーディオ信号符号化の基礎研究と標準化に従事。

1989年、AT&Tベル研究所 客員研究員、東京大学より工学博士。1990年以降 携帯電話用音声符号化の開発と日本国内での標準化、IP電話用音声符号化の開発とITU-Tでの標準化、高能率オーディオ符号化方式の開発とISO/IEC MPEG-4での標準化、高品質オーディオ・ロスレス符号化の開発とMPEG-4での標準化に貢献、現在に至る。

NTTフェロー、日本音響学会理事、IEEEフェロー。



うらの じょうじ  
浦野 文治 様

(日本テレビ放送網株式会社 技術統括局 技術戦略センター  
技術開発部 調査企画担当副部長)

1986年、東京工業大学大学院理工学研究科修士課程情報工学専攻修了。同年、日本テレビ放送網(株)に入社。以来、高画質放送、デジタル放送、映像・音声符号化、コンテンツ保護技術などの技術開発業務や、スタジオおよび中継番組の調整業務に従事。

また、上記に関して、MPEG、ITU-R、ARIB等の標準化活動に参画し、ARIB(電波産業会)では音声符号化方式作業班主任として放送応用を考慮した符号化パラメーターによるAAC方式の検証を進め、日本におけるデジタル放送の音声符号化方式の規格化に貢献。

# FOSTER

## フォスター電機株式会社 殿

1949年、西村茂廣氏と篠原弘明氏が東京渋谷に信濃音響研究所を設立してスピーカーの製造を開始。1953年に信濃音響株式会社に改組され「フォスター」を商標登録とする。1959年、フォスター電機株式会社と改称。

1960年東京・昭島に工場建設。スピーカー、イヤホン、ヘッドホン、マイクロホン等、幅広い音響製品のラインナップを有し、世界のさまざまな音のニーズに技術と蓄積されたノウハウを生かして応えている。近年のデジタル音楽プレーヤーの普及にも音響部品の供給面で一役を担っている。

商号:フォスター電機株式会社

本社:東京都昭島市宮沢町512番地

代表取締役社長:東 泰雄

### 日本オーディオ協会賞 選考基準

社団法人日本オーディオ協会では、1986年(昭和61年)の創立35周年を機に5年毎に、次の選考基準により組織または個人に対し「日本オーディオ協会賞」を贈呈しています。

1. オーディオ・ビジュアル関連の技術開発と実用化により、業界の発展に貢献した日本或いは海外の組織または個人
2. オーディオ・ビジュアル関連のシステムに関する標準化を行い、業界の発展に貢献した日本或いは海外の組織または個人
3. オーディオ・ビジュアルに関する音響文化の発展に貢献した日本或いは海外の組織または個人